DJ-X81　クローンユティィリティ　V.0.04

DJ-X81 をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
このソフトウエアは、DJ-X81 のメモリーとバンクの編集、リンク設定、各種機能の設定値変更ができるもので、フリーウエアとしてご提供しています。このソフトウエアの使い方に関するステップバイステップのサポートはしておりません。また、PC によっては USB シリアル変換や通信信号のレベルなどの相性から、お使いになれないこともありますので、予めご了承ください。パソコンの操作が苦手な方は、パソコンの使用に慣れた方に設定や使い方をお聞きください。ソフトは単純な機能しか持ちませんが、表示はすべて英文で、日本語版はありません。

プログラムはウインドウズ XP の32ビットとセブン、エイトの64ビット版で動作を確認しています。お使いになるには、別売の専用 PC 接続ケーブル　ERW-7(定価￥4，725)が必要です。PC 接続ケーブルをお買い上げいただく前にソフトをインストールして、インターフェースなどをあらかじめご覧になり、お使いいただけそうならケーブルをご購入ください。ケーブルの返品はできません。

＊インストール
ダウンロードした ZIP ファイルを解凍します。解凍したフォルダにある DJ-X81 Clone Utility v0.04.msi ファイルをクリックして、インストールします。デフォルト状態なら、C ドライブの program files フォルダに DJ-X81 Clone Utility v0.04 というフォルダができ、デスクトップにショートカットが表示されます。フォルダにある「出荷時メモリーデータ 002.x81」ファイルは、出荷時に DJ-X81 にプログラムされているメモリーデータです。エディターの File メニューから Open を選び、このファイルを指定するとエディターに読み込むことができます。
アンインストールはウインドウズのプログラム削除から DJ-X81 Clone Utility v0.04 を削除してください。更新する場合は、古いバージョンを必ず削除してから新しいものをインストールしてください。

＊接続ケーブルのドライバーについて
XP の場合、初めて ERW-7 をお使いになるときはドライバーソフトをインストールします。
・ALINCO　電子事業部、でウエブ検索して下記のダウンロードコーナーにアクセスします。
www.alinco.co.jp/division/electron/softdl03.html
・PC 接続ケーブル ERW-7/ERW-8　ドライバーソフトのリンクから「ドライバーソフトのダウンロード」を選び、ERW7_8driver.zip をダウンロードして解凍します。
・おなじ場所にある「ドライバーソフトのインストールについて」PDF に説明があるので、それ

にしたがってインストールします。

ウインドウズセブンやエイトの場合は、ERW-7 を USB ポートに接続して、スタートボタン＞デバイスマネージャーから「ポート（COM と LPT）」の項目に「USB serial port(com 数字)」が表示されていれば、何もする必要はありません。これが出ないときだけ、XP と同じ要領でドライバーを入れてください。現行の最新ドライバー CDM20828 は、エイトまで対応するドライバーです。

＊クローンユティリティの使い方
・ERW-7 のプラグを DJ-X81 のイヤホンプラグに、USB コネクターを PC の USB につなぎます。

・ユティリティプログラムを起動します。DJ-X81 Clone Utility v0.04 画面がモニターに表示されます。

・DJ-X81 の MONI キーを押したまま、電源を入れます。CLONE が液晶画面に表示されます。

・ウインドウズのデバイスマネージャーにあった「USB serial port(com 数字)」の数字を、ユティリティのツールバーにある Port メニューの COM 番号に合わせます。

・新しいファイルをゼロから作るときはこの状態で BANK00-000 のような表示の上をダブルクリックします。別のウインドウが表示されるので編集したい内容を半角英数字で入力します。ローマ字は大文字で入力してください。OK で確定（入力が不十分だと INVALID と警告が出ます）、CLEAR で書き直し、<<や>>で前後のチャンネルを参照、CANCEL で作業を中断できます。

・メモリーに合わせてバンクのサイズも編集できます。バンク編集テーブルは、各バンクのサイズを入力します。バンクは最大50バンク（最小は1000chの1バンクだけ）まで作れますが、メモリーch数の合計は、必ず1000でないと編集を受け付けません。Total 欄が1000以外の時は赤い数字が表示されます。

・編集を終えるときは、FILE メニューで SAVE を選び、名前を付けて保存します。それをユティリティに読み込むときは、FILE から OPEN を選び、保存したファイルを指定します。

【参考】デフォルトのインストールを行なえば、ウインドウズのCドライブ Program Files の中

に DJ-X81 Clone Utility v0.04 というフォルダが生成されます。そのフォルダにある「出荷時メモリーデータ 002.x81」は、出荷時の標準メモリーデータのバックアップファイルです。これを読み込んで、ソフトの動きになじむための教材代わりに使うと便利です。

・エクセルなど作表ソフトで編集したいときは FILE から Export を選び、CSV 形式でデータを書き出します。CSV を読み込むときは Import を使います。半角英数字で入力してください。デフォルトのメモリーデータを吸い上げてテンプレート代わりに使い、カスタマイズしたい文字や数字の部分だけ書き換えていくようにすると間違いがありません。自分で手入力するときは、本書の終わりにある付録を合わせてご参照ください。間違えたデータをインポートするとメモリーがうまく反映されませんが、DJ-X81 が故障することはありません。正しいデータに書き換えれば治ります。まず、ダミーのデータを短波や AM 放送、トーンスケルチや空線キャンセラーなど、いろんな周波数や設定を入力して、どのような状態で CSV ファイルに記述されるか見ておくと、参考になります。

・Memory メニューの下にある BANK-LINK と PS-LINK はメモリースキャンとプログラムスキャン時にリンクさせたいバンクやサーチペア番号を入力できます。

・DJ-X81 に編集したデータを書き込むには、COMM メニューから Write All を選びます。メモリータブの Write selected memory は該当のチャンネルだけを書き込むときに使い、早く書き込みができます。Clear memory は削除で、該当するものだけを消す selected とすべて消去する all があります。

・バンクテーブルも同様です。Bank Write と read はバンクの切り方の書き込みと読み込み、Reset はプログラム標準の16バンクの切り分けに戻します。

・Settings タブは機能の設定に使います。詳細はセットモードの項目にあるパラメータと同じです。misc 枠の一番下、EXPERT をONにすると全ての機能で編集ができます。エキスパートモードで設定して書き込んだ値は、X81 が記憶しますからビギナーモードにしても値は有効になっています。

・設定値を全て初期値(デフォルト状態)に戻すには、一度プログラムを落とし、改めて起動してください。

・[Preset]の項目にあるパラメータは、以下となっています。
1: TV MOD
DJ-X81 は実際のTVと同じく、1ch～10chの番号(リモコンID番号)に、実際に放送で

使われている13～5 2ch のチャンネル(物理チャンネル)を割り当てることができます。
＊1～12のパラメータにしてAREA欄で受信地域を選ぶと物理チャンネルが Remocon key Id マスに表示されます。
＊AREAで＊＊＊＊＊を選ぶと1～10のマスに実際に受信したい物理チャンネル番号を直接書き込むことができるようになります。聞きたくないCHは－ハイフンで隠すこともできます。
＊13～52パラメータにすると、DJ-X81 のTV受信モード時、13～52chが全て表示されます。

2:TV　PCH
TV MOD で物理チャンネルモード(13～52)を選んだとき、編集後、最初に電源を入れたときに出てくるCH番号を選択できます。ただ、次回からは最後に受信されていたCHで起動するので、あまり意味があるパラメータではありません。これはこのコーナーのAM／FM／MARINEにも共通です。EWS－CHはEWS／EEWが起動したときに受信するFM局のチャンネルですから、ラジオ局に割り当てるなら正しく設定してください。
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

付録：Import/Export 機能について

Export された CSV ファイルの各欄の記述は以下のようになっています。

1 BANK-CH
ライターソフトの Bank の文字列をそのまま表示しており、import 時にはここは参照されません。この部分を書き換えても、保存先のバンクやメモリーが変わることはありません。上の行から順に登録されていきます。

2 Frequency
受信周波数。Export 時は MHz を付加して出力しますが、import 時には書く必要はありません。小数点以下の、最後に付く 0 は全て省略しても構いません。
整数部、小数部の桁数に特に指定はありませんが、書いたからと言って何でも DJ-X81 がその通り読み込むこともありません。

3 Mode
FM / AM / WFM のいずれかが有効となります。

4 Step
5KHz / 6.25KHz / 8.33KHz / 10KHz / 12.5KHz / 15KHz / 20KHz / 25KHz / 30KHz / 50KHz / 100KHz / 125KHz / 150KHz / 200KHz / 500KHz / 1MHz のいずれかが有効となります。Hz はあってもなくても構いませんが、K か M は記述してください。

5 Subtone
OFF / Train / CTCSS / REV / DCS のいずれかが有効となります。

6 TSQ
67.0Hz / 71.9Hz / 74.4Hz / 77.0Hz / 79.7Hz / 82.5Hz / 85.4Hz / 88.5Hz / 91.5Hz / 94.8Hz / 97.4Hz / 100.0Hz / 103.5Hz / 107.2Hz / 110.9Hz / 114.8Hz / 118.8Hz / 123.0Hz / 127.3Hz / 131.8Hz / 136.5Hz / 141.3Hz / 146.2Hz / 151.4Hz / 156.7Hz / 162.2Hz / 167.9Hz / 173.8Hz / 179.9Hz / 186.2Hz / 192.8Hz / 203.5Hz / 210.7Hz / 218.1Hz / 225.7Hz / 233.6Hz / 241.8Hz / 250.3Hz / 69.3Hz / 159.8Hz / 165.5Hz / 171.3Hz / 177.3Hz / 183.5Hz / 189.9Hz / 196.6Hz / 199.5Hz / 206.5Hz / 229.1Hz / 254.1Hz のいずれかが有効となります。。Hz は書かなくても構いません。

7 DCS
023 / 025 / 026 / 031 / 032 / 036 / 043 / 047 / 051 / 053 / 054 / 065 / 071 / 072 / 073 / 074 / 114 / 115 / 116 / 122 / 125 / 131 / 132 / 134 / 143 / 145 / 152 / 155 / 156 / 162 / 165 / 172 / 174 / 205 / 212 / 223 / 225 / 226 / 243 / 244 / 245 / 246 / 251 / 252 / 255 / 261 / 263 / 265 / 266 / 271 / 274 / 306 / 311 / 315 / 325 / 331 / 332 / 343 / 346 / 351 / 356 / 364 / 365 / 371 / 411 / 412 / 413 / 423 / 431 / 432 / 445 / 446 / 452 / 454 / 455 / 462 / 464 / 465 / 466 / 503 / 506 / 516 / 523 / 526 / 532 / 546 / 565 / 606 / 612 / 624 / 627 / 631 / 632 / 654 / 662 / 664 / 703 / 712 / 723 / 731 / 732 / 734 / 743 / 754 のいずれか。先頭の 0 はなくても構いませんが、出力されたファイルには＊0が追加されます。

8 Train
300Hz / 400Hz / 500Hz / 600Hz / 700Hz / 800Hz / 900Hz / 1000Hz / 1100Hz / 1200Hz / 1300Hz / 1400Hz / 1500Hz / 1600Hz / 1700Hz / 1800Hz / 1900Hz / 2000Hz / 2100Hz / 2200Hz / 2300Hz / 2400Hz /

2500Hz / 2600Hz / 2700Hz / 2800Hz / 2900Hz / 3000Hz / JR のいずれか。
Hz はあってもなくても構いません。

9 Shift
OFF / + / - のいずれかが有効となります。

10 Offset Freq.
オフセット周波数です。export 時は MHz を付加して出力するが、import 時にはなくても構いません。また、小数点以下の、最後に付く 0 は全て省略しても構いません。整数部、小数部の桁数に特に指定はありませんが、無効な値は反映されません。

11 Skip
スキップ設定ありの時は*で、それ以外は何も入れないでください。

12 Name
メモリネーム。
export 時は先頭に*を付加して出力するが、import 時にはなくても構わない。
先頭の一つ目の*に関しては、import 時に消去されます。＊はこのマークの後ろの記述を文字として認識させるために使います。例えば012，と入力しても数字と認識され、ゼロを飛ばして12，と認識されます。このとき＊012，と書けばX81では012，と表示します。＊＊012は＊012と表示されます。

アルインコ（株）電子事業部